



勅 使 門



第115号

恭賀新禧



管長 西村 岡紹

平成二十八年（二〇一六）の新年を迎え、おめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。私達は世界の平和を望みますが、一家、一族、一国と、それぞれが平和に過ごしてこそ、世界の平和が実現するのです。

安穩に暮らす、これが一番大事なことです。聖徳太子は、「和を以て貴しと為す」と述べられました。まさにその通りです。

## 表紙説明

## 勅 使 門

西教寺総門を潜り、参道を登ると勅使門に突き当たります。平時は閉じられていますが、勅使参向時の他、管長親下入山時や、春の法華千部会等、特別の行事の時に開かれます。四脚門の建築様式で、門柱の前後に控柱を二本立てた格式の高い門であります。

本堂横の納骨堂から見渡すと、遠く琵琶湖を望んで、付近に植樹している樹々も茂り、特に春は桜、秋は紅葉の景色が楽しめます。

宗祖真盛上人鑽仰会会長 川合 歳明

新年を迎えられ謹んでお慶び申し上げます。本年はサル（猿）の年であり、十二支では「申」と書いてあります。沢山の読み方があり「さる・重ねる・もうす・のびる」等、また西南西の方角を示されもいたします。

「サル」は「去る」に通じて縁起が悪いと昔から言われますが、十二支の「申」は「モノもうす」と言うことになり大変結構で、今年は良い事を「もの申す」年であると思います。

一匹であれば御猿（ござる）を「人がござる、人が来なさる」となり縁起が良くなり、二匹であれば「悪い人に似ざる」で吉、三匹は「見ざる・聞かざる・云わざる」の像を云いますが、三猿・庚申さんとも言います。山王権現の神の使いのお守りとなります。四匹は「死が去る」となり吉、五匹となると「護（ご）猿（ござる）」（マモル猿）となり総本山の絵馬や法華千部会ポスターに登場いたします。

円戒国師御和讃の一節に「手白の猿（ましら）鉦をうち 名号唱うる景色なり 手白の猿なかりせば 我此の樹下にあらじちよう」と日吉神社の「手白の猿」が真盛上人の身代わりとなった護猿となり「沢山の人がござる」で、沢山の参詣者が来て頂く佳い年でありたいと念願いたします。

宗祖真盛上人鑽迎会は平成二十四年に設立され早五年目を迎え、福井・伊賀・伊勢の別格本山、信濃善光寺前立本尊御開帳の法要と講演がなされました。「温故知新」の教えに従い、宗祖の遺徳を鑽仰し念仏の弘通を願い、今後共恩徳に報いたく思いますので、益々のご入会とご支援を宜しくお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



# 元三大師と角大師

この名前は、正月三日になくなられた大師に誰とも無く付けられた呼び名で、元三大師の本名は、良源。諡を慈慧大師と申され天台宗の高僧です。正月の三日に亡くなられたことから元三大師と呼ばれています。

大師は、延喜十二年九月三日(912)に近江国浅井郡虎姫(現在の滋賀県長浜市)に豪族の子として生まれ、十二歳の時に比叡山に上り仏門に入られました。大変理論の卓越した僧で、奈良仏教の高僧とも論争して論破され、また、先を見通す力の強い方で、村上天皇の皇后の安産祈願を行うなど天台宗に多くの功績を残し、康保三年(969)に天台座主になりました。宗祖真盛上人が感得された『往生要集』の著者恵心僧都のお師匠様としても有

名で、西教寺を「不断念仏道場」に定められた本宗とも大変ご縁の深いお方です。

永観三年一月三日に亡くなられました。

元三大師は、現在全国の神社仏閣で盛んになっている「おみくじ」を日本で最初に作られた方といわれています。見力にすぐれた方で、伝説ではありますが、大師が鬼の姿に化けて疫病神を追い払ったなどの奇跡が伝えられ、「魔除けの護符」として、角を生やした鬼の姿の大師像が全国のお寺などで民衆に配られ、家々の玄関や軒先に貼られています。ご本山西教寺でもお授けしております。是非、お近くのお寺でもお聞きになってください。

(文責 内藤秀穂)



## 真盛上人往生伝記にふれる

### 第1回 感謝と喜びに満ちた往生のおすがた

新年あけましておめでとうございませす。「真盛上人往生伝記にふれる」と題し、今号より数回にわたりお話をさせていただきます。天台真盛宗宗学研究所では、昨年九月より『真盛上人往生伝記』の輪読会を二月に一度の頻度で開催しております。『真盛上人往生伝記』は本宗の有する最も古く、最も重要な典籍です。真盛上人の葬儀後に営まれた四十八日の別時念佛会の期間中に、直弟子の真生がまとめたものであり、真盛上人の往生のおすがたがありありと記述されています。

いよいよ往生されようかという時、真盛上人は「ああ、有り難いことだ。この虫(腹の病氣)によって往生できるのが本当に嬉しい。」とおっしゃいました。病氣にさいなまれ死に瀕している時、私たちは痛みに苦しみ、その病氣を憎むのが当然でしょう。ところが、真盛上人は自分をさいなむ病氣にすら感謝と喜びの心をお示しになられたのです。

私たちは、自分に対して害を与えるものや、自分の意にそぐわないことに



対して腹を立て、それを排除しようと思います。その時、真盛上人のお言葉を思い出して下さい。病氣にすら感謝を示された真盛上人にあやかり、静かな気持ちで身の回りを見直し、家族をはじめとする自分に近い人たちに感謝の心を表せれば、何より素晴らしいことではないでしょうか。

このような真盛上人のお言葉や行いを収録した『真盛上人往生伝記』を私たちに分かりやすい現代語に翻訳しようという試みが冒頭でふれた「輪読会」であります。これに合わせて『寶珠』の誌面をお借りして数回に渡って『真盛上人往生伝記』についてお話させていただきます。この機会に、天台真盛宗最古の典籍にふれ、御開山真盛上人のおすがたに思いを巡らせて下さい。(文責 宗学研究所已講 市川直史)

### 第三回『真盛上人往生伝記』輪読会

【日時】 平成二十八年一月十九日(火)

十九時より

【会場】 真盛上人御往生の地 西蓮寺(伊賀市長田)に於て

## 私の信心



福善寺総代・宗議会副議長

石河 雅崇

私は、幼い頃から亀山市和田町に住み両親と一緒に仏間に正座して佛様に向かい小さな念珠を手握り、リンを鳴らして「まんまんちゃん」と言っ拝んだ記憶が鮮明にあり、その習慣を両親から教えられました。思えば、これが天台真盛宗との出会いであります。私が人生の生き方を変えたのは、フランク・ベドガーの「欧米人は人生三回勝負する」との著に触れた時です。意を決し十年程勤めた銀行を二十八歳で退社してホンダ関係の協力会社に飛び込み、国内外の社長を歴任しました。佛教国タイでの滞在は五年と長く、各地の寺院を拝観して廻る事が出来ました。タイの人々は優しく何時も笑顔で接してくれ、この時私は会社をリタイヤしたら地域に貢献出来る人になろう

と決心しました。

退職後、「みえ防災コーディネーター」の資格を取り、東日本大震災や尾鷲熊野災害にはボランティアに勤しみ、地元の自治会長を二度引受け、平成十五年に菩提寺の檀家総代、十九年に別格本山西来寺の世話方、二十二年より当宗議会議員を務めさせて頂いています。毎月八日には、西来寺で円頓戒と講話を御山主より受け佛教の勉強を楽しまさせて頂いています。今そのような中で一番の心配なのは、人々の佛教心が薄れつ、あるのではと見受けられる事です。

子供は減り、家族は家を各々別に持ち、故郷の家督を継ぐ人は減り、檀家の付合いを抜ける人が増える等々、各お寺も幾多の問題を抱えています。私は佛祖の加護と衆生の恩恵に依り今後の人生を歩んで行きたいと思っています。ご教示を賜っています西来寺寺井御山主・浄見寺森尾御住職を始めとする諸師、世寿百で遷化された菩提寺の櫻井徳順僧正、関福藏寺平子清総代を始めとする他界された諸先達に感謝の御礼を申し上げ、新しい年を迎えます。

## 神猿

私は、御本山売店の包み紙のイラストの可愛いお猿に愛着を持っています。左の写真は、法道和尚が始められた「一心講」念仏法要時に当寺の本堂に掛ける軸で、このお猿は非常に厳しい顔で鉦を打ち西教寺に襲いかかって来た暴徒と対峙するお猿の緊迫感が伝わってきます。七言絶句は二十七世貫主真尚上人、下の歌は探題前大僧正圓如とあり、叡山の圓戒国師寿塔再建の開眼供養を天保十年（一八三九）に執行した人達で真盛派再興の心意を感じます。

今日も御本山本堂からは絶えることの無い鉦声が静けさの中に響いています。この情景には、誰しもが手を合わせ感謝のお念仏が自然と口から出て、暫しは娑婆の世界に居ることを忘れま

す。しかし、地球上では相変わらず戦乱

と難民が尽きることは無く、私達日本人を取り巻く自然も含めた諸環境は明るくありません。無欲清浄の御教えは、精神的支えのみならず身近に実践する処に意義が有りますが、何でも便利簡単が一番、ついでは法要も簡素簡単と言われる昨今、そこに世間出世間・ご先祖様への報恩感謝の念が有るのかと疑いたくなる次第、一般的には概ね面倒くさいだけ、全て我々が蒔いた種。余分な物は買い過ぎず使い過ぎず、過たる「愛」は孫や子に与えず、刹那の自己満足は慎みたい。消費拡大・国民総活躍とか、もう結構、こんな日本に誰がした。我等仏教徒、山川草木悉皆成仏を想い起し、資源争奪に起因する自然破壊と戦乱に支えられた繁栄を見直し、神猿を見習い厳しい姿勢で専ら称名に励み、御仏と自然と世間様の慈しみの功德が普く一切に及ぶこと願い、いづれは可愛い神猿になりたいものです。

（木造引接寺 小泉法秀）





## 平成二十八年総本山西教寺・宗務所主行事予定

## 一、修正会

一月一日

## 一、元三大師御祥当法要

一月三日

## 一、大般若転読会

一・五・九月十六日

## 一、宗祖大師降誕会

一月二十八日

## 一、節分会

二月三日

## 一、人形供養法楽

三月三日

## 一、法華千部会

四月五日～七日

## 一、寺庭婦人・檀信徒合同研修会

五月二十日～二十一日

## 一、教学法儀講習会

五月二十八日～二十九日

## 一、天台真盛宗宗議会

六・十二月第三週の予定

## 一、孟蘭盆施餓鬼会

八月十六日

## 一、重陽節句会

九月九日

## 一、別時念仏会

九月二十四日～九月二十五日

## 一、除夜法要

十二月三十一日

※行事日程は都合により変更すること  
もありますのでご了承ください。

## 大根煮

一月十五日より二月十四日の約一ヶ月間、食堂にて西教寺秘伝大根煮をご賞味いただくことができます。

大根は、食中毒にかららないということから古来より年の始まりに大根煮を食べるとその一年は病氣にならないと言われたことから、無病息災を祈り食されたと言われております。

ぜひ、年の始まりに一年の家運隆昌、

家内安全、無病息災を総本山のご本尊様にお参りされ秘伝大根煮をご賞味いただくことをおすすめいたします。

大根煮定食 一、三〇〇円（税別）  
大根煮 八〇〇円（税別）



## ひな御膳・ひな人形展

二月十五日より三月三日まで、食堂に於きまして、ひな御膳をご賞味いただいております。

このひな御膳は子供の成長を祈り食していただくお料理でございます。

まず、本堂で息災・健康をお祈りお参りされたあと、表書院で江戸時代から現代までの美術的価値のある人形展をご鑑賞いただき、一日ご家族皆様でお過ごしいただきますようご案内申し上げます。

ひな御膳 二、〇〇〇円（税別）  
ひな人形展 四〇〇円（税別）



## 団体参拝

ありがとうございます

平素は、多数、檀信徒様の総本山への御登山、御参拝を賜り誠にありがとうございます。

今後共、各末寺の御住職、檀信徒様によりよいご参拝がいただけますよう拝観案内等の充実につとめてまいりますので、たくさんの方の御参拝をお待ちしております。

## 十月

三日 福井教区中里組西徳寺様団体 十名 参拝

二十三日 福井教区東部組長久寺様団体 三十二名 参拝

## 十一月

五日 伊勢教区藤方組玉淀寺様団体 四十名 参拝

## ◆編集後記

この紙面から、久しぶりに「編集委員会」が再発足し、小泉・内藤・森尾（五十音順）の三名が就任しました。

檀信徒の皆様は、楽しくお読みいただけたような明るく読みやすい紙面の編集を心掛けて努力の流汗をモットーに頑張つて参ります。特に開山の御教えなども解り易く解説いたします。

この新しい年が、皆様にとりまして幸い多い一年になりますようお祈りしております。

## 発行所 天台真盛宗教学部

大津市坂本五丁目十三一

総本山西教寺内

電話 大津 (〇七七) 五七八〇〇一三番代

印刷所 宮川印刷株式会社

大津市富士見台三十八

電話 (〇七七) 五三三二二四一番